

第23回（平成3年度）サントリー音楽賞  
受賞者は尾高忠明氏に決定

毎年わが国の洋楽の発展にもっとも顕著な業績をあげた日本人に贈る「サントリー音楽賞」の第23回（平成3年度）受賞者は、尾高忠明氏に決定した。

1. 平成4年1月15日（成人の日）午前10時より東京丸の内の東京会館において、選考委員13名の出席により第一次選考を行ない、「候補者」を選定した。
2. 引き続き3月2日（月）午前10時より、東京紀尾井町のザ・フォーラムにおいて選考委員13名の出席により最終選考会を開催、慎重な審議の結果、第23回（平成3年度）サントリー音楽賞受賞者に尾高忠明氏が選定された。そして、同日午後開催の理事会において正式に決定された。
3. 尾高忠明氏の選考理由は別紙のとおり。
4. 選考委員は下記の13氏。  
磯山 雅・岩井宏之・小石忠男・菅野浩和・武田明倫・中河原理・丹羽正明・  
藤田由之・船山 隆・松本勝男・諸井 誠・門馬直美・吉田雅夫

（50音順）

尾高忠明氏（指揮）

<贈賞理由>

東京フィルハーモニー交響楽団の常任指揮者として、尾高忠明氏は過去17年間着実な成果をあげ、とりわけ、わが国の新作の演奏に積極的に取り組んできた。昨年は、10月、イギリス・カーディフにおいてエルガー「第1交響曲」を名演したほか、BBSウェールズ交響楽団の日本ツアーの成功、11月のN響定期公演でのエルガー「第1交響曲」等の指揮などで、これまで蓄積した優れた能力を日本の聴衆にも十二分に示した。

<略歴>

1947年生まれ。桐朋学園で指揮を斎藤秀雄に師事。68年NHK交響楽団に指揮研

究員として入団。サヴァリッシュ、マタチッチらの下で研鑽を積む。1970年桐朋学園大学卒業。同年、第2回民音指揮者コンクールで2位入賞。72年、ウィーン国立アカデミーに留学、指揮をスワロフスキーに師事。74年から91年まで東京フィルハーモニー交響楽団常任指揮者を務め、81年から86年まで札幌交響楽団正指揮者を兼務。86年4月BBCウェールズ交響楽団への客演指揮、翌年同楽団の首席指揮者に就任。91年5月BBCウェールズ交響楽団を率いて日本公演を行う。オペラ、現代音楽など幅広い分野で意欲的な活動を行なっている。

以 上